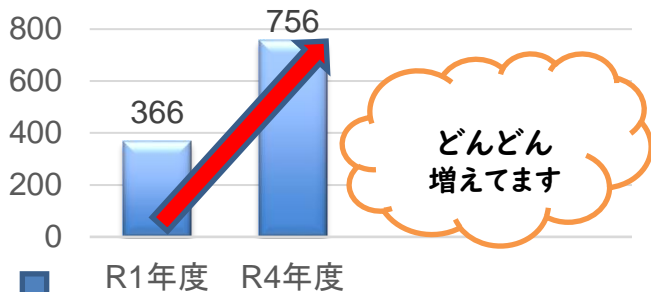




広がるキャリア教育の波！！



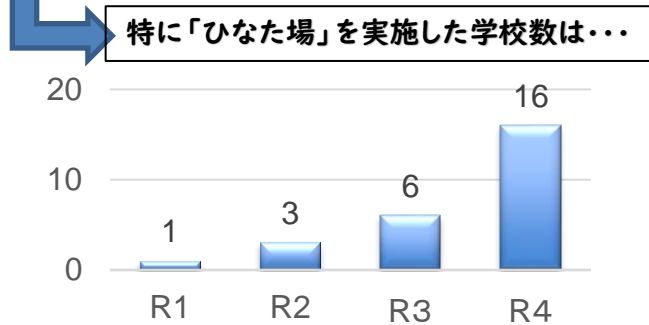
今年度も、様々な学校からキャリア教育支援のご依頼をいただき、小学校から県立学校まで幅広く関わらせていただきました。相談支援の件数は、**計756件**にものびりました。

R1年度と比較すると、キャリア教育のニーズが高まってきたかが分かります。

特に、**キャリア教育プログラム「ひなた場」**については、**今年16件に急増**しています。先生方や子ども達、地域の方々から「やって良かった」という声を多くお聞きすることができました。

また、職業人講話の講師、探究的な学びのメンターなど、様々な形で関わらせてもらっています。その中で、生き生きと学ぶ子ども達の姿に何よりのやりがいを感じてきました。

今後もご要望に応じて、各市町村と連携をしながら、支援させていただきます。



コーディネーターと協働した先生たちの声

<名前>伊地知 美乃 先生
<学校名>三股町立宮村小学校
<協働>「総合的な学習の時間」の授業支援



1月に5年生の総合的な学習の時間で「すごい人はいつからすごいのか？」についての学習しました。道徳でも取り上げられた大谷翔平選手を題材に、いつからすごいのかを調べたり、話し合ったりしました。子どもたちから、「職種によっては、がんばれば、いつからでもすごくなれる。」等の意見が発表され、将来に可能性を感じるよい機会となりました。

<名前>井上 透 先生
<学校名>都城市立高城中学校
<協働>よのなか先生依頼



1年生のキャリア教育の中で連続7回にわたり「よのなか先生」として地域の様々な業種の方から話を聞きました。普段聞けない斜め上（親でも友人でもない）の大人の話を聞くことで生徒も新たな学びがあり、入学当初より学年全体が成長したと感じます。次年度以降もキャリア教育支援センターと連携し、本校の生徒の学びを深めたいと考えています。

<名前>丸尾 和博 先生
<学校名>宮崎県立宮崎商業高校
<協働>「総合的な探究の時間」のコーディネート



「職業人インタビュー」の企画をともに考え、16名の職業人をマッチングしていただきました。Zoomでの事前打合せ等も設定していただき、当日は共通理解の下、教育活動ができました。生徒も記者会見と記事制作を積極的に取り組んでいました。また、「問いの見つけ方」をテーマに生徒に分かり易く話をしていただき、非常に助かりました。

<名前>佐保 博光 先生
<学校名>延岡市立岡富中学校
<協働>「ひなた場」の実施支援



3年生を対象に11月に「ひなた場」を実施しました。中3の秋、体育大会や文化祭を終え進路選択に向かい合おうとする時期に実施することで「想いをカタチにする」アウトプット活動として高い効果があると思います。生徒数が多く講師を確保するのが大変でしたが、支援センターと協働することで中規模校でも「ひなた場」を開催することができました。

<コーディネーターへの相談及び依頼方法>

気軽に教育支援課（0985-24-3156）にご連絡ください。*コーディネーターの活動費は無料です

県内から3校 キャリア教育に関する文部科学大臣表彰

えびの市立飯野中学校

<推薦理由>

飯野中学校は、ここ2年間で「Scrap&renovate」の考えの下、カリキュラム・マネジメントを行い、これまでの取組の更なる充実を図っている。『えびの学』(地域資源を生かした「総合的な学習の時間」)を中心とする「キャリア教育」については、働き方改革も踏まえ、コロナ禍においてもできる、また地域人材や専門家も活用しながら地域を巻き込んでできる取組を開発し、市内外へ積極的に発信している。

- ① 「えびのお仕事図鑑制作プロジェクト」：職場体験学習に代わって、地域で活躍する16名の講師を招聘し、生徒自らがインタビュー・撮影・原稿作成と、GIGAスクール構想で一人一台配付されたタブレットを上手に使う「えびのお仕事図鑑」を制作した。市の商工会からこの図鑑制作を依頼された設定で図鑑制作という仕事を体験することにつながった。
- ② 「対話型キャリア教育プログラム飯野版ひなた場」：県教育委員会が開発した「ひなた場」を飯野版にリメイクし実施した。もともとは大人と語るプログラムであるが、隣接する県立飯野高等学校の高校生と人生について語る形に変え、授業を実践し、大きな成果を上げた。
- ③ 「中高連携したプログラミング学習」：県立飯野高等学校と連携し、高校での授業の講師を本校でも招聘し、ドローンを使ったプログラミング学習を行った。単にプログラミングを学ぶ授業ではなく、「目標設定する→挑戦してみる→理解する→改善する」という「プログラミング思考」を学ぶ内容となっている。



国富町立木脇中学校

<推薦理由>

木脇中学校は、中学校学習指導要領が令和3年度から全面实施されたことを受け、町教育研究センターで作成した「キャリア・パスポート」を小学校から中学校への接続を含め、効果的に活用するように指導している。キャリアに係る取組を行った際に、記録をとる時間や場を週時程に位置付ける工夫をしたり、全職員で学びを蓄積するポートフォリオ的な活用を意識した上で、継続的に実践したりする取組が見られる。生徒自身の「自己の変容を実感できるしくみ」が形になっている点が評価できる。

- ① 総合的な学習の時間:総合的な学習の時間において、改善の視点を「探究的な活動」「地域に根差した体験活動」「3年間を系統的、連続的につなぐ」としている。
- ② キャリア教育の理解:地域コーディネーターの協力以外にも役場や町内の事業所等にも「つながり」を求める働きかけを行った。「生きてはたらく資質・能力」を身につけるため、俯瞰的に3年間を見通した計画を確立している。
- ③ 特別活動:令和5年度に全学校区に展開するコミュニティ・スクールを見据え、「町全体への波及」という考えのもと、町内全学校の管理職、教職員に対して、全5回の「カリキュラム・マネジメント研修会」を実施している。中核である指導教諭を研修講師とし、町全体にキャリア教育を推進していく機運が高まっている。



椎葉村立椎葉中学校

<推薦理由>

椎葉中学校では、村民の願いを真摯に受け止め、ふるさと椎葉村のよさや価値、村民の生き方等から自分の生き方を見つめ、探究していくキャリア教育としての学習を総合的な学習の時間を核として進めている。総合的な学習の時間では、令和2年度まで特設で行っていた「地域創造探求事業」を年間指導計画に組み込み、3年間を貫くテーマや各学年のテーマを設定し、地域を担う人材育成を目指したカリキュラムになるよう改善を図っている。

椎葉村地域おこし協力隊や合同会社UIキャスト(椎葉村で人口減少の課題にチャレンジしている企業)をキャリア教育サポーターとして位置付け、各学年担当職員とキャリア教育サポーターの役割を整理し、連携体制を構築することで、地域との連携に係る教職員の負担を軽減するとともに、地域と密着した質の高い学習活動となるよう工夫している。椎葉村と関わりながら自らのキャリアを構築する資質・能力を小中一貫で育成できるように、小・中学校の総合的な学習の時間のカリキュラムに椎葉中学校の取組を含めた内容を「椎葉村学」として位置付け、椎葉中学校長を委員長とする推進委員会の下で準備を進めている(令和5年度開始)。



宮崎県キャリア教育支援センター

〒880-0835 宮崎市阿波岐原町前浜4276番地729(宮崎県教育研修センター内)

電話番号:0985-24-3156 FAX番号:0985-24-3578

WEBサイト:<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc058/>

相談や依頼はこちらのQRコードから出来ます!

